

第2回 奈良女子大学  
オリンピック・公開シンポジウム



オリンピックの創出と  
クーベルタンのオリンピックイズムを問う

**日時** 2015年3月8日(日)  
14時～16時15分

**会場** 奈良女子大学文学系  
S棟 235

**シンポジスト**

コーディネーター 井上洋一(奈良女子大学教授)

**和田浩一**(フェリス女学院大学教授)  
「オリンピックの創出とクーベルタンのオリンピックイズム  
——オリンピックムーブメントの内実と同時代的評価・誤解について」

**小石原美保**(国土舘大学非常勤講師)  
「クーベルタンのオリンピックイズムとフランス文学界の接近  
——20世紀初頭のフランスのスポーツ文学に注目して」

**石坂友司**(奈良女子大学准教授)  
「オリンピック創出の社会的背景  
——近代スポーツの誕生とオリンピックにおける伝統の創造」

**黒須朱莉**(一橋大学大学院)  
「オリンピックとナショナリズム  
——初期オリンピックにおけるナショナリズムの高まりと理念的相異」

**主催** 奈良女子大学生活環境学部心身健康学科スポーツ健康科学コース  
**共催** 奈良女子大学社会連携センター

入場無料/事前申込不要

## シンポジウム開催の趣旨

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催される。オリンピックはスポーツの競技大会であると同時に、文化的プログラムでもある。オリンピック理念は時代とともに新たに付け加わっていくが、平和思想を中心とした精神的基層は揺るぎないようにもみえる。1964年東京大会では、小学校の教科書で題材に取り上げられるなど、身近なところでオリンピックにふれあい、その理念について考える機会が用意された。

東京大会について考える際に、オリンピックとはどのようなイベントであるのか、それを開催するということが東京という都市や日本に何をもたらすか、といった問いを立てることにとどまらず、このムーブメントに東京、日本がどのような意義を新たに書き込めるのか、という視点を付け加えることができるのではないだろうか。そのような検討作業を経て、東京大会はより実りあるものになるだろう。

近代オリンピックの創出にはクーベルタンの存在と思想、そこから紡がれたオリンピズムをめぐる問いが必要不可欠であった。そこで、オリンピックムーブメントがどのような背景と思想で創出され、展開されてきたのかについて掘り起こし、クーベルタンの思想と理念、それを可能にした時代的背景と社会的条件について明らかにしていきたい。それはクーベルタンの思想・理念を唯一無二の神聖化されたものとしてとらえるのではなく、多くの誤解を含めて解釈されてきた創始者について現代的に問い返すことでもある。

## アクセス

近鉄奈良駅1番出口より徒歩5分。  
正門よりお入りください。  
お車での来学はご遠慮ください。



## シンポジスト／コーディネーター

### 和田浩一（フェリス女学院大学教授）

「21世紀に生きるピエール・ド・クーベルタンのオリンピズム——日本の過去と未来の視点から」（藤井雅人ほか編，2015，『体育・スポーツ・武術の歴史に見る「中心」と「周縁」——国家・地方・国際交流』道和書院，224-41.）  
「オリンピズムという思想——新しいオリンピズムの構想への序章」（2010，『現代スポーツ評論』23: 62-71.）

### 小石原美保（国土舘大学非常勤講師）

『クーベルタンとモンテルラン——20世紀初頭におけるフランスのスポーツ思想』（1995，不味堂出版.）  
「『日本少国民文庫』におけるスポーツ・運動関連読み物に関する一考察——1936年版と1943年版との比較分析から」（2014，『体育史研究』31: 1-19.）

### 石坂友司（奈良女子大学准教授）

『<オリンピックの遺産>の社会学——長野オリンピックとその後の10年』（松林秀樹共編，2013，青弓社.）  
「東京オリンピックと高度成長の時代」（2009，『年報・日本現代史』14: 143-85.）

### 黒須朱莉（一橋大学大学院）

「IOCによるオリンピック休戦アピールの決議決定——1992年第99回IOC総会議事録と国内外の新聞資料を手がかりに」（2013，『スポーツ史研究』26: 17-31.）  
「IOCにおける国歌国旗廃止案の審議過程（1953-1968）——アベリー・ブランデー会長期を中心に」（2012，『一橋大学スポーツ研究』31: 39-46.）

### 井上洋一（奈良女子大学教授）

「アスリートをめぐる課題」（日本スポーツ法学会監修，2011，『詳解スポーツ基本法』成文堂，167-82.）  
「モスクワオリンピックボイコットに対する訴訟——アメリカにおける競技者の参加の権利」（1992，『スポーツ史研究』5: 15-23.）

## お問い合わせ先

奈良女子大学スポーツ健康科学コース 石坂友司 E-mail: yishizaka@cc.nara-wu.ac.jp / TEL/FAX: 0742-20-3347  
奈良女子大学社会連携センター TEL: 0742-20-3734/ FAX: 0742-20-3958  
<http://www.nara-wu.ac.jp/liaison/lecture/20150308b/>